

事業所計画

■ビジョン(1年後、どのようなゴールを目指すか)

- * 独自の「生活訓練」事業を進化させ、成功事例の蓄積をもって認知度up。
- * 単独事業として採算の取れる事業を確立。
- * 支援員→常勤4名、非常勤2名体制。

■外部環境

社会環境	機会: 脅威:	・自立したい、働きたいと思っている障がい者のニーズは大きい。また、将来に不安を感じている障がい者の家族に対する支援が必要であり、社会的にも求められている。 ・障がい福祉サービスの傾向として、既存のサービス(就労支援)の中で完結しようとしているため、生活訓練の意義を理解している事業所や計画相談が少ない
市場環境	機会: 脅威:	・沖縄市、うるま市近郊に生活訓練事業所はまだ少なく、画一的なプログラムが多い。独自の「生活訓練事業所」自体の認知度が低い。訓練実施内容も「家事のみ」と勘違いされている。
その他環境	機会: 脅威:	・沖縄市の中で「生活訓練」事業所として独自のスタイルを確立するチャンスがある。 ・単独事業所でも採算のとれる事業として支援内容の独自性が必要

■内部環境

強み	・開所当時からメンバーであり、半年間の経過を把握している。 ・全員が初めて経験する事業なので、自分たちで作りに上げていく事ができる。 ・SFそれぞれが違うキャラクター！！	弱み	・通所利用者が増えてきた時にスペースの課題がある。 ・独自の訪問型スタイルにおいて、体制作りや支援方法において確率されていない。
----	---	----	---

■行動計画(項目に対する具体的行動内容)

業績(戦略)	・日々の成功事例を通し、多職種・関係機関への事例報告を交えた営業活動を行い、口コミでも認知度が広められる事を目指す。 ・自治会・銀行など、地域へのネットワークを構築していき、相談・問い合わせが気軽にできる事業所を目指し、新規利用者獲得を目指す。(作品の展示会・全体プログラムの実施場所借用等々)
組織	・あいさつ、整理整頓を徹底する。 ・チームワーク業務、個々のやるべき業務を明確にし、ひとりひとりが主体性をもって業務に取り組める風土を目指す。 ・建設的な話し合いを行い、風通しのよい事業所風土を目指す。 ・訓練プログラムの開発にあたって、地域や関係機関のネットワークを駆使しバラエティに富んだ独自のスタイルを目指す。
人材育成	・毎日の振り返りを通し、日々の支援で実践を積み重ね、対人援助スキルの向上を目指す。 ・専門性を高めるにあたって、自己学習・ケース会議・研修参加できる後方支援を行う。
その他環境	・バラエティに富んだプログラム構築で実績を積み上げていく。

